

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 きた むら たか ひろ 北村尚浩 准教授



主な研究テーマ

- 子どものスポーツ参加とライフスタイル
- 中学校における武道教育と武道の国際化

平成22年度の研究内容とその成果

日本の伝統文化の一つとして位置づけられる武道が、2012年度から中学校の体育において必修化されるのは周知のとおりです。学習指導要領では、武道学習を通しての伝統文化の教育、継承が大きな目的として位置づけられていますが、日本における武道実施者は減少傾向にあります。中学生、高校生の運動部加入状況等からも若者の武道離れと、現代スポーツへの関心の高さが窺えます。その一方、日本の伝統としての武道が海外へ伝播し普及していく中で、柔道でのカラー柔道着やポイント制の導入などに代表される、いわゆる武道のスポーツ化を危惧する声も聞かれています。国際的な普及の中で、多様な文化や価値観における武道の伝統性との葛藤が生じているのです。

このように武道の国際化が進む中で必修化される中学校で、どのように日本の伝統文化を生徒たちに伝えていったらいいのでしょうか。そこで、平成21年度に引き続き平成22年度は、武道必修化による学習効果、教育効果がどのように捉えられている

のかを明らかにすることを目的に全国47中学校の生徒5,718人と、体育系学部を有する5大学の体育専攻学生1,632名を対象として質問紙調査を実施しました。以下に主な結果を示します。

武道を学習することによってどのような効果が期待できると思うか、「1. 思う」から「5. 思わない」までの5段階評定順にそれぞれ5から1までの得点を与えて数値化して平均値を求めました。

中学生で最も高い値を示したのは「礼儀正しさが身につく」(4.26±1.00)という項目でした。次に高い値を示したのは「仲間と共に経験ができる」(4.24±0.95)で、以下「体力を高めることができる」(4.17±1.02)、「勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる」(4.15±1.03)、「日本の伝統文化に触れることができる」(4.11±1.07)と続いています。逆に最も低い値を示したのは「自分の意思を相手に伝える能力が身につく」(3.46±1.14)という項目でした。次に低い値を示したのは「体力の高め方を理解することができる」(3.71±1.10)で、以下「自分の役割を果たそ

表1 武道必修化によって期待される学習効果（中学生）

	N	Mean
礼儀正しさが身につく	5676	4.26 ± 1.00
仲間と共に経験ができる	5666	4.24 ± 0.95
体力を高めることができる	5666	4.17 ± 1.02
勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる	5677	4.15 ± 1.03
日本の伝統文化に触れることができる	5670	4.11 ± 1.07
ルールや仲間をほめたりするなどマナーを守ろうとする態度が身につく	5674	4.10 ± 0.99
運動を豊かに実践するための基礎的な知識や技や能力を身につけることができる	5666	4.09 ± 0.96
日本の伝統文化を理解することができる	5676	4.02 ± 1.10
バランスのよい心身の発達が図（はか）れる	5668	3.97 ± 0.99
全力を尽くして積極的に運動に取り組む態度が身につく	5668	3.95 ± 1.06
相手を大切にすることができるようになる	5668	3.95 ± 1.07
自分に合った運動の技術や能力を身につけることができる	5637	3.93 ± 1.05
自分の健康や、自分や仲間の安全に配慮できるようになる	5667	3.92 ± 1.04
武道の伝統的な考え方を理解することができる	5669	3.90 ± 1.09
仲間と積極的に関わろうとする態度が身につく	5668	3.89 ± 1.04
仲間とのチームワークが高められる	5676	3.85 ± 1.17
相手を思いやる態度が身につく	5665	3.85 ± 1.09
運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる	5672	3.85 ± 1.10
自分に合った運動を見つけることができる	5679	3.82 ± 1.13
自分の役割を果たそうとする態度が身につく	5668	3.82 ± 1.05
体力の高め方を理解することができる	5669	3.71 ± 1.10
自分の意思を相手に伝える能力が身につく	5675	3.46 ± 1.14

表2 武道必修化によって期待される学習効果（体育専攻学生）

	N	Mean
礼儀正しさが身につく	1427	4.37 ± 0.92
日本の伝統文化に触れることができる	1426	4.34 ± 0.84
日本の伝統文化を理解することができる	1428	4.16 ± 0.94
ルールや仲間を称賛するなどマナーを守ろうとする態度が身につく	1427	4.07 ± 0.98
武道の伝統的な考え方を理解することができる	1427	4.07 ± 0.97
勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる	1427	4.05 ± 0.96
相手を尊重することができるようになる	1428	3.96 ± 1.00
体力を高めることができる	1424	3.91 ± 1.02
バランスのよい心身の発達が図れる	1429	3.89 ± 1.00
自分の健康や、自分や仲間の安全に配慮できるようになる	1425	3.81 ± 1.04
相手を思いやる態度が身につく	1426	3.78 ± 1.09
全力を尽くして積極的に運動に取り組む態度が身につく	1426	3.75 ± 1.07
運動を豊かに実践するための基礎的な知識や技能を身につけることができる	1427	3.72 ± 1.02
仲間と積極的に関わろうとする態度が身につく	1428	3.58 ± 1.09
仲間との協同経験ができる	1425	3.58 ± 1.14
自分に合った運動の技能を身につけることができる	1429	3.54 ± 1.06
仲間との連帯感が高められる	1420	3.53 ± 1.13
自分の役割を果たそうとする態度が身につく	1427	3.47 ± 1.13
自分に合った運動を見つけることができる	1425	3.46 ± 1.11
体力の高め方を理解させることができる	1428	3.39 ± 1.11
運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる	1428	3.37 ± 1.11
自分の意思を相手に伝える能力が身につく	1428	3.28 ± 1.13

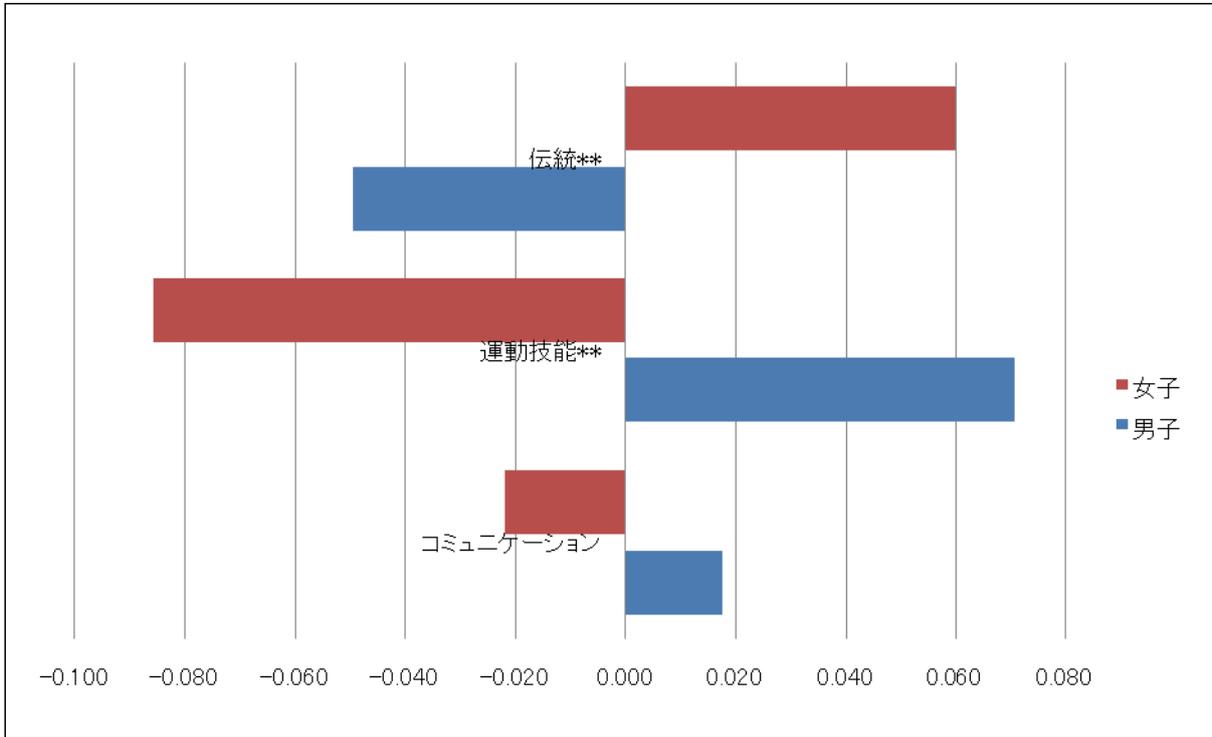


図1 期待される学習効果の男女比較

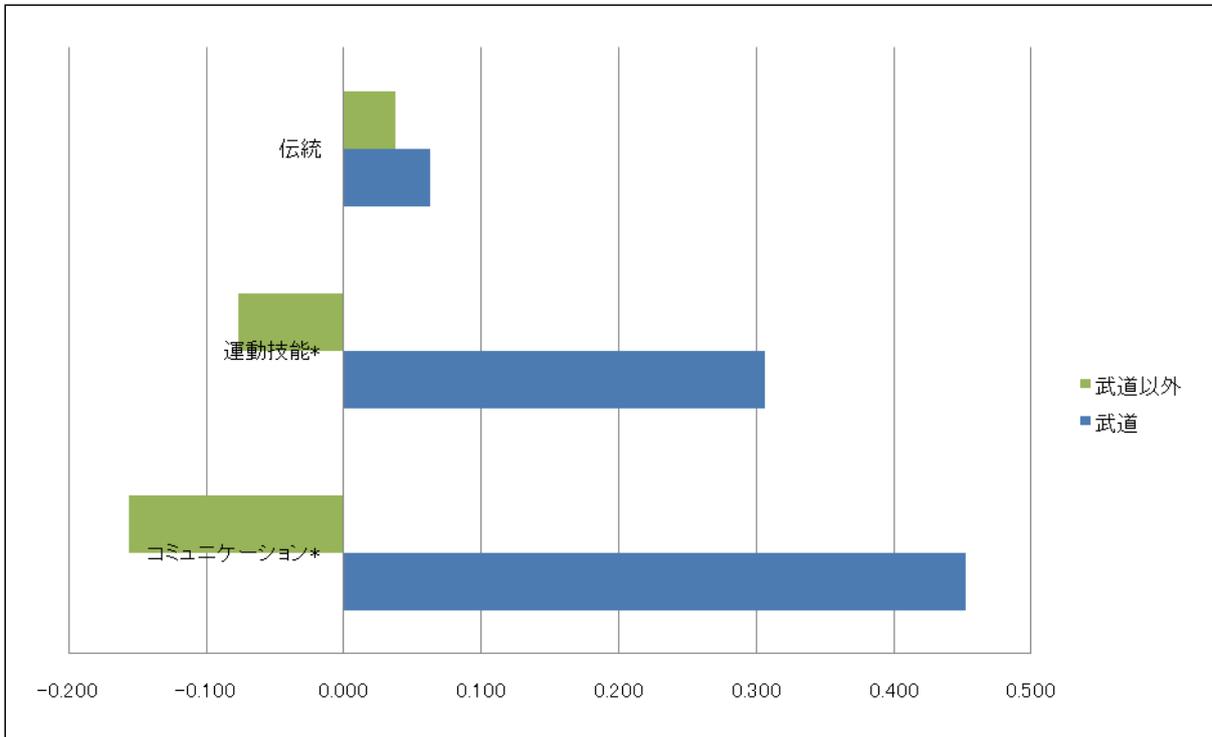


図2 期待される学習効果の専門種目による比較

うとする態度が身につく」(3.82±1.05)、「自分に合った運動を見つけることができる」(3.82±1.13)、「運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる」(3.85±1.09)などが続いています。

一方、大学生でも「礼儀正しさが身につく」(4.37±0.92)という項目が最も高い値を示しましたが、2番目、3番目に高い値を示したのはそれぞれ「日本の伝統文化に触れることができる」(4.34±0.84)、「日本の伝統文化を理解することができる」(4.16±0.94)という項目で、日本の伝統や文化の学習への期待が大きい様子がわかります。

次に、これらの期待される学習効果に関する項目について因子分析という統計手法を用いて分析したところ、「コミュニケーション」「運動技能」「伝統」の3つの要因が学習効果として期待されていることが明らかになりました。これを中学生では男女間で、体育専攻学生では専門種目間で比較した結果をそれぞれ図1と図2に示しています。

まず、中学生の男女間での比較では「運動技能」と「伝統」で男女間に統計的に有意な差が認められました。運動技能因子では男子の方が高い値を示し、伝統因子では女子の方が高い値を示しています。このことは、本能的な性差の影響であり、男子は1対1で戦うことに強い関心を示し、投げる、抑えるなどに強い好奇心が見られることから、体力の高まりや技の面白さに興味を示していることが考えられます。この背

景には昨今の格闘技ブームの影響から武道の技への魅力が関与していることも考えられます。女子中学生の伝統文化の因子得点が高いのは、道衣を着る、イコール着物を着る、また畳の上で正座、坐礼をするなど、日本古来の伝統的慣習や振る舞い方に強い関心があることが考えられます。

次に、体育専攻学生の専門種目による比較では、「コミュニケーション」と「運動技能」で統計的に有意な差が認められました。いずれも武道を専門としている学生の方が高い値を示しており、これらの学習効果に対する認識に違いがあることが明らかになりました。

これからの研究の展望

ここでお示ししたのは調査結果のごく一部ですが、武道必修化の当事者である中学生と、将来の武道教育の担い手となり得る立場の体育専攻学生が、武道必修化による学習効果をどのように捉えているのかを明らかにすることができました。

昨年度の調査と合わせて、生徒、教員、体育専攻学生のデータが揃ったわけですがこれらのデータの総合的な分析が今後の課題と言えます。